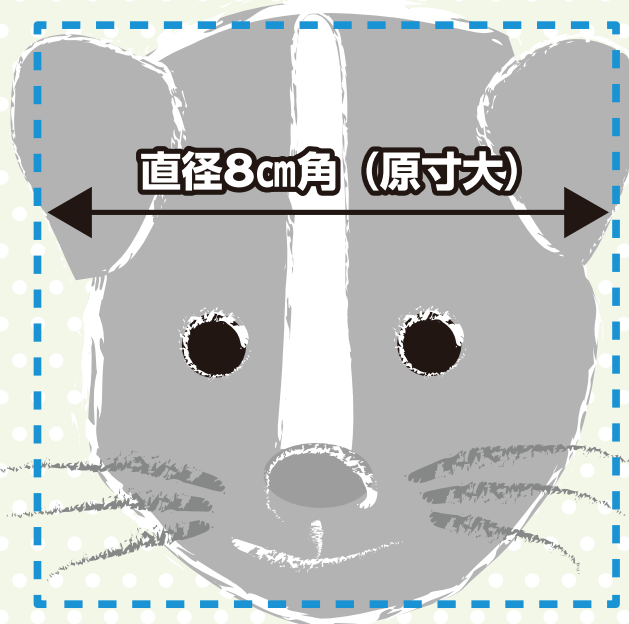


防除対策—被害にあわないために—

●縁の下や通風口など家屋の隙間をふさぐ。

家屋への侵入を防ぐために、縁の下や通風口、屋根と壁の間などの隙間をふさぐことが有効です。

アライグマなら10cm角、ハクビシンなら右枠のように、頭が入り込める7~8cm角の隙間があれば、どこでも侵入します。



ハクビシンなら
これくらいの穴でも
侵入します



●生ゴミや敷地内の果実などを放置しない。

雑食性なのでバッタやセミなどの昆虫、トカゲやネズミ、鳥のヒナなどの小動物、スイカやカキ、ミカンなどの果実や種子まで、何でも食べます。

生ゴミやペットフードの残りものなどは外に放置しないようにしましょう。また敷地内の果実や野菜など取り残したものが無いようにしましょう。



●捕獲用箱わなの貸し出し制度があります。

狛江市では、アライグマやハクビシンの捕獲用箱わなを貸し出しています。期間は3週間程度で、設置場所は希望者の敷地内に限ります。ただ定期的にエサを交換する必要があります。

万一捕獲できた場合でも絶対に近づいたり触ったりせず、速やかに下記の担当部署にご連絡ください。

野生動物ですので、寄生虫（ダニ・ノミ・線虫など）を持っていたり、病気に感染している可能性があります。



アライグマ・ハクビシンに関するご相談・お問い合わせ先

狛江市 環境部 環境政策課 水と緑の係
〒201-8585 狛江和泉本町1-1-5 Tel.03-3430-1111(内線2561・2562)
直通03-3430-1298

狛江市環境マスコット
エコまん



再生紙を使用しています。

とくていがいらいせいぶつ がいじゅう 特定外来生物・害獣の

アライグマ・ハクビシン

って、どんな動物？



アライグマ



ハクビシン

狛江市では、特定外来生物に指定されているアライグマと有害鳥獣として疎まれているハクビシンの目撃情報や相談件数が増加しています。特定外来生物とは、もともと日本にいなかった生物(外国から持ち込まれたり、やってきた生きもの)のうち、とくに私たちの生活や生態系などに被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれのあるものについて、国が規制すべき生物として指定した動植物のことです。

野生化したアライグマやハクビシンは、民家や社寺の天井裏などに住みつくこともあり、ゴミを荒らしたり、糞尿被害を与えるなど私たちの生活に好ましくない影響をもたらします。これら迷惑動物の生態とともに、狛江市の取り組む防除対策などを紹介します。



アライグマ・ハクビシンの見分け方

アライグマの生態と特徴

日本にいるアライグマは、アメリカからペットとして輸入され、その後、逃げ出したり捨てられたりしたものが増え、野生になったものです。

夜行性で、森林から都市部まで様々な環境に生息していますが、一般的に川や池などの水辺を好みます。雑食性なので生ゴミやペットのエサをはじめ、エビ、カニ、魚、カエルなどの水中生物やトカゲ、ネズミ、バッタ等の陸上生物、スイカやカキなどの果実や種子など何でも食べます。

アライグマを外見で見分けるポイントは「尻尾のしま模様」です。タヌキやキツネなど日本の野生動物にはこの模様がありません。気性が荒く、凶暴なところがありますので、見つけても触ったり近づいたりしないように注意してください。

見分けるポイントは尻尾にある5~7本の黒いしま模様です。



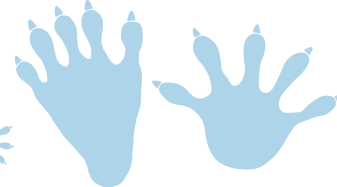
成獣は、頭から尻尾の先まで70~90cmほどで中型犬ぐらいの大きさです。

耳はとがって、白い縁どりがある。

目のまわりが、黒いマスク模様。眉間には黒筋。ヒゲは白い。

前足・後足とも5本指で鋭い爪がある。

アライグマの足跡
後足 前足



ハクビシンの生態と特徴

ハクビシンは古く平安時代に輸入され、それがいつしか日本に定着してしまった外来動物だといわれています。本来の生息地は東南アジアや台湾などで、寒さに弱いため、民家や神社の縁の下や天井裏などに棲みつくことが多くあります。

アライグマと同じように雑食性で、とくにスイカやブドウ、リンゴ、トウモロコシなど果実類を好み、庭の農作物が被害にあっています。

見分けるポイントとしては、額から鼻先にかけて白い筋があることです。また足が短く、尻尾が長いことから全体的にスリムな体型をしています。

木登りが得意で、薄暗い夕方に電線の上を歩いて移動するシーンに出くわすことがあります。



成獣は、頭から尻尾の先まで90~110cmほどで尾が長く、全体的にスリムな体型です。

見分けるポイントは白鼻心(ハクビシン)の名の通り、額から鼻先に白い筋があることです。

ハクビシンの足跡
後足 前足



前足・後足とも5本指。爪なし。足が短く、黒い。

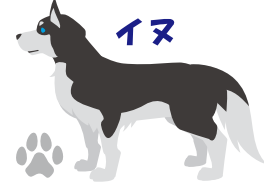
間違わないで！よく似ているほかの動物。

タヌキ

頭から尻尾の先まで50~60cm。体色は茶色で、足は黒色。尻尾にしま模様なし。指は4本です。



イヌ



ネコ



アライグマ・ハクビシンによる被害事例

生活環境への被害

野生化したアライグマやハクビシンが増えると、市街地に進出し、ゴミ捨て場を荒らしたり、家屋の天井裏や縁の下に棲みついて建物を損壊させたり、糞尿による被害をもたらします。また神社や仏閣にも侵入するため、文化財への損害も報告されています。

何より衛生面で大きな影響を及ぼします。野生動物ですので、寄生虫(ダニ・ノミ・回虫など)を持っていたり、狂犬病などの感染症の媒介により、人間やペットへの影響も懸念されます。



農作物や畜産への被害

雑食性のため果実や野菜などの食害が増えています。庭や畑のスイカやトウモロコシ、ブドウ、ミカン、イチジク、ナシ、カキ、イチゴなど糖度の高い果樹や野菜類や畜産飼料の食害、また養魚場や養鶏場への侵入も確認されています。

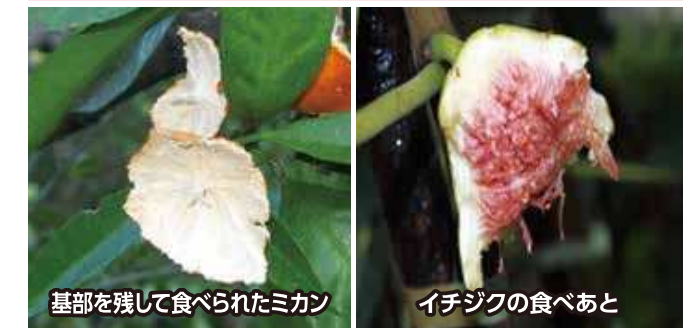
農作物や畜産物はある程度生育したものでなくては出荷できません。したがって商品化直前の食害に対しては手のほどこしような状態です。

防護壁や防護ネットを設置しても、それらを登って侵入するため、数を減らす以外に手の打ちようがない状況です。

アライグマによる被害



ハクビシンによる被害



生態系への被害

共に夜行性のため、夜間の活動が活発です。木登りが得意なハクビシンは、樹上の鳥の巣を襲いヒナを食べたり、樹洞に侵入して、ねぐらにしていたフクロウやムササビ、コウモリなどを追い払います。

また川や池など水辺を好むアライグマは、サンショウウオやヤマアカガエル、ホトケドジョウなど絶滅危惧種に指定されている希少種を捕食しています。

他の動物に対して、感染症や寄生虫などを媒介する可能性もあり、在来の野生動物の減少につながる恐れがあります。このまま増え続けると、日本の生態系へ重大な被害をもたらすことが懸念されています。



狛江市からのお願い。子どもたちに伝えてあげてください。

日本で最初に野生化したアライグマやハクビシンの多くは、家庭で飼われていたペットでした。可愛いからと簡単に飼ひ、手に負えなくなったら、まるでおもちゃのように捨ててしまう。そんな無責任な行為が原因で野生化して増えてしまいました。犬や猫に限らず、ペットは私たちと同じ命ある生きもの……、そして家族です。家族の一員として迎えたら、ペットが一生涯を終えるその時まで、責任をもって一緒に暮らしてあげてください。とても当たり前の事ですが、一番大切なことだと思います。